

Samba3.0 インストールガイド v2.2



オープンソース・ソリューション・テクノロジー(株)

更新日: 2012 年 4 月 16 日

作成日: 2007 年 2 月 23 日

リビジョン: 2.2

目次

1. はじめに.....	1
1.1 Samba パッケージ修正・変更内容.....	1
2. Linux 版 Samba パッケージのインストール.....	2
2.1 対応 Linux ディストリビューション.....	2
2.2 提供する RPM パッケージ.....	2
2.2.1 Samba のみご利用の場合.....	2
2.2.2 RedHat Enterprise Linux4, CentOS4 をご利用の場合.....	3
2.2.3 Samba LDAP 連携をご利用の場合.....	3
2.3 RPM パッケージの新規インストール.....	3
2.3.1 準備.....	3
2.3.2 Samba パッケージのインストール.....	3
2.4 Linux 版 Samba パッケージのアップデート.....	4
2.4.1 バックアップの取得.....	4
2.4.2 準備.....	5
2.4.3 Samba パッケージのアップデート.....	5
2.5 Linux 版 Samba パッケージアップデートの際の注意事項.....	6
2.5.1 samba 3.0.24 から samba 3.0.35 へのアップデート.....	6
2.5.2 samba 3.0.24-1.10 OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート.....	6
2.6 Linux 版 Samba の初期設定.....	7
2.7 Linux 版 Samba の起動スクリプト.....	7
2.8 Linux 版 Samba のコマンド、および各種ディレクトリの配置.....	7
3. Solaris 版 Samba パッケージのインストール.....	9
3.1 対応する Solaris のバージョン.....	9
3.2 提供する Samba パッケージ.....	9
3.2.1 Samba のみご利用の場合.....	9
3.2.2 Samba LDAP 連携をご利用の場合.....	9
3.3 Solaris 版パッケージのインストール.....	10
3.4 Solaris 版 Samba パッケージのアップデート.....	10
3.5 Solaris 版 Samba パッケージ アップデート時の注意事項.....	11
3.5.1 samba 3.0.24-1.8 OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート.....	11
3.5.2 samba 3.0.24-1.9 OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート.....	12
3.5.3 samba 3.0.24-1.10 OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート.....	12
3.6 Solaris 版 Samba の初期設定.....	12
3.7 Solaris 版 Samba の起動スクリプト.....	13
3.7.1 起動スクリプトに関する注意事項.....	13
3.8 Solaris 版 Samba のコマンド、および各種ディレクトリの配置.....	13
4. Samba のバージョンアップ.....	15
4.1 Samba 3.0.24 から Samba 3.0.35 へのバージョンアップ.....	15
4.1.1 smb.conf のパラメーターの仕様変更.....	15
4.1.2 fam change notify の設定.....	16
4.1.3 Active Directory 連携時の winbind 設定.....	16
5. インストールガイド更新履歴.....	18

1. はじめに

本ドキュメントは、弊社提供の Samba を導入、アップデートを実施するための手順書です。

Samba パッケージのインストールの際に、必ず本ドキュメントの内容を確認してから、作業を実施してください。

また、Samba パッケージのアップデートの際には、アップデート時の注意事項について記載していますので、注意事項を確認した後に、パッケージのアップデートを行ってください。

本ドキュメントに関する記載内容について、疑問点等がある場合には、弊社サポート窓口までお問い合わせください。

1.1 Samba パッケージ修正・変更内容

弊社パッケージの修正内容の詳細については、下記 URL の「Samba 修正履歴詳細」をご参照ください。

<http://www.osstech.co.jp/product>

2. Linux 版 Samba パッケージのインストール

2.1 対応 Linux ディストリビューション

弊社が提供する Samba パッケージは、以下のディストリビューションに対応しています。

- RedHat Enterprise Linux 5(x86, x86_64)
同一パッケージで、下記ディストリビューションにも対応しています。
 - CentOS 5(x86, x86_64)
- RedHat Enterprise Linux 4 (x86, x86_64)
同一パッケージで、下記ディストリビューションにも対応しています。
 - MIRACLE LINUX V4.0(x86, x86_64)
 - Cent OS 4 (x86, x86_64)
- RedHat Enterprise Linux3 (x86)
 - Cent OS3(x86)

2.2 提供する RPM パッケージ

弊社が提供する Linux 版 Samba は、以下の RPM パッケージによって構成されています。

|| 2.2.1 Samba のみご利用の場合

- osstech-base-3.0-71.el5.noarch.rpm
- osstech-support-3.0-71.el5.noarch.rpm
- samba-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- samba-client-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- samba-common-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- samba-doc-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- samba-swat-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- libsmbclient-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- libsmbclient-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
- osstech-libiconv-1.10-15.el5.i386.rpm
- osstech-libiconv-devel-1.10-15.el5.i386.rpm

上記パッケージに付随するバージョン番号、リリース番号(例: 3.0.35-1.12.osstech)は、弊社で Samba パッケージの改善、修正等に伴い、番号が変更されます。

また、x86_64 版の Samba パッケージでは、アーキテクチャの種別を表す” i386”の代わりに” x86_64”となります。

|| 2.2.2 RedHat Enterprise Linux4, CentOS4 をご利用の場合

弊社 Samba 3.0.35 をご利用の場合、以下のパッケージも提供します。

- osstech-gamin-0.1.9-7.el4.i386.rpm

|| 2.2.3 Samba LDAP 連携をご利用の場合

Samba LDAP 連携をご利用の場合、上記パッケージに加え、下記の 2 つのパッケージも提供します。

- smbldap-tools-0.9.2-1.21_OSSTECH.i386.rpm
- perl-Crypt-SmbHash-0.12-1.2.1_OSSTECH.noarch.rpm

2.3 RPM パッケージの新規インストール

多くの場合、Linux ディストリビューションに含まれる samba パッケージがインストールされています。

現在インストールされている samba パッケージのバージョンを確認したい場合、次のコマンドで確認することができます。

```
# rpm -qa | grep samba
```

パッケージのバージョン番号に「osstech」が含まれていない Samba のパッケージは、Linux ディストリビューションに含まれる Samba パッケージです。

Linux ディストリビューションに含まれる Samba パッケージが存在する場合であっても、次の手順で弊社提供の Samba パッケージをインストールすることができます。

|| 2.3.1 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -
```

```
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 2.3.2 Samba パッケージのインストール

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の Samba パッケージ一式があることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS/  
# ls base  
osstech-base-3.0-71.el5.noarch.rpm  
osstech-support-3.0-71.el5.noarch.rpm  
# ls samba
```

```
libsmbclient-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
osstech-libiconv-1.10-15.el5.i386.rpm
samba-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
samba-client-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
samba-common-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
samba-swat-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm
osstech-gamin-0.1.9-7.el4.i386.rpm (RHEL4/CentOS4 のみ)
```

x86-64 環境では、64bit 用パッケージに加えて、以下の 32bit パッケージも合わせてインストールする必要があります。

```
libsmbclient-3.0.35-1.12.osstech.i386.rpm
osstech-libiconv-1.10-15.i386.rpm
samba-client-3.0.35-1.12.osstech.i386.rpm
samba-common-3.0.35-1.12.osstech.i386.rpm
```

続いて、弊社提供の Samba パッケージをインストールします。

rpm コマンドで弊社提供の Samba パッケージ一式をインストールします。

```
# /bin/rpm -iv base/*.rpm
# /bin/rpm -iv samba/*.rpm
```

Samba - LDAP 連携を利用の場合は、上記に加えて smbldap-tools パッケージ一式もインストールしてください。

```
# /bin/rpm -iv smbldap-tools/*.rpm
```

以上でインストールは完了です。

2.4 Linux 版 Samba パッケージのアップデート

まず、後述の Linux 版 Samba パッケージのアップデートの際の注意事項を確認し、アップデートの際の注意事項に該当する場合、注意事項に従って対処を行ってください。

2.4.1 バックアップの取得

パッケージのアップデート前に、各種設定ファイル、および Samba のキャッシュファイルのバックアップを取得しておきます。

一般的な構成の場合、下記のディレクトリのバックアップを実施してください。

ディレクトリ	ディレクトリに含まれるデータ
/etc/samba	Samba の設定ファイル一式
/var/cache/samba	Samba のキャッシュファイルなど

|| 2.4.2 準備

パッケージのインストールは、root ユーザーのみに許可されていますので、最初に su コマンドで root ユーザーになります。

```
$ su -  
Password: root のパスワードを入力 (画面には表示されません)
```

次に弊社から提供されたパッケージをインストール先ホストの任意のディレクトリに展開します。下記の例では/srv/osstech/software/RPMS に展開したことを前提として記述します。

|| 2.4.3 Samba パッケージのアップデート

/srv/osstech/software/RPMS に弊社提供の Samba パッケージがあることを確認します。

```
# cd /srv/osstech/software/RPMS  
# ls base  
osstech-base-3.0-71.el5.noarch.rpm  
...  
# ls samba  
libsmbclient-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm  
osstech-libiconv-1.10-15.el5.i386.rpm  
samba-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm  
samba-client-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm  
samba-common-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm  
samba-swat-3.0.35-1.12.osstech.el5.i386.rpm  
osstech-gamin-0.1.9-7.el4.i386.rpm (RHEL4/CentOS4 のみ)
```

まず最初に base ディレクトリに含まれているパッケージのアップデートをおこないます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm
```

既に最新のパッケージがインストール済みの場合、次のエラーが表示されます。この場合はインストール済みのパッケージをアップデートする必要はありませんので、アップデート不要なパッケージを、ディレクトリから除いておき、再度、アップデートを試みます。

```
# /bin/rpm -Uhv base/*.rpm  
準備中... #####  
# [100%]  
パッケージ osstech-base-3.0-71.el5 は既にインストールされています。  
パッケージ osstech-support-3.0-71.el5 は既にインストールされています。
```

上記の例の場合、osstech-base パッケージと osstech-support パッケージのアップデートが不要なことを表しています。

続いて、rpm コマンドで弊社提供の Samba パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv samba/*.rpm
```

また、システムに、開発用の devel パッケージや、ドキュメントを含む doc パッケージもインストール済みの場合は、次のように devel パッケージや doc パッケージも一緒に指定して、Samba パッケージをアップデートします。

```
# /bin/rpm -Uhv samba/*.rpm samba/devel/*.rpm samba/doc/*.rpm
```

なお、Samba パッケージのアップデートにより、smbd、nmbd、winbindd はアップデート処理内において、自動的に再起動されます。

以上でインストールは完了です。

2.5 Linux 版 Samba パッケージアップデートの際の注意事項

まず、現在利用中の Samba パッケージのバージョンを次のコマンドで確認します。

```
# rpm -qa | grep samba
samba-swat-3.0.24-1.20_OSSTECH
samba-common-3.0.24-1.20_OSSTECH
samba-doc-3.0.24-1.20_OSSTECH
samba-3.0.24-1.20_OSSTECH
samba-client-3.0.24-1.20_OSSTECH
```

既存のパッケージからアップデートする際の注意事項を記載しますので、該当するバージョンの注意事項に従って、各種ファイルのバックアップや、設定ファイルの変更を実施してください。

その後、samba パッケージのアップデートを実施してください。

2.5.1 samba 3.0.24 から samba 3.0.35 へのアップデート

samba のバージョンアップに伴い、仕様が変更されている機能があります。

詳しくは、4 章を参照し、パッケージのバージョンアップ後に、設定の変更を実施してから、Samba を再起動してください。

2.5.2 samba 3.0.24-1.10_OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート

- smb.conf の” msdfs root”パラメータのデフォルト値を” yes”から” no”に変更しました。
 - 既存の設定ファイル中に” msdfs root”パラメータが設定されていない場合、samba 3.0.24-1.10_OSSTECH 以前の samba では” msdfs root = yes”として動作しています。こ

の場合、” msdfs root= yes”パラメータを smb.conf に追加せずに、samba-3.0.24-1.10_OSSTECH 以降のパッケージにアップデートすると、既存の Windows クライアントが接続できなくなる可能性があります。したがって、” msdfs root = yes”を smb.conf の[global]セクションに追加してから、samba パッケージのアップデートを実施してください。

- samba の利用する iconv ライブラリとして、glibc の libiconv から GNU の libiconv を利用するように変更しました。この結果、samba パッケージのインストール時に osstech-libiconv パッケージが必要となります。

2.6 Linux 版 Samba の初期設定

- Samba の設定ファイルである smb.conf は/etc/samba ディレクトリに作成してください。
- 既存の samba 環境を引き継ぐ場合には、samba のキャッシュファイル(***.tdb) を/var/cache/samba ディレクトリにコピーしてください。
- samba のログファイルは、/var/log/samba ディレクトリに作成されます。
- winbind による Active Directory 連携時には、/etc/krb5.conf に Kerberos 認証のための設定を行ってください。

2.7 Linux 版 Samba の起動スクリプト

samba(smbd、nmbd)、および winbind の起動スクリプトとして、/etc/init.d/smb、および/etc/init.d/winbind を用意してあります。

smbd、nmbd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/service smb start
```

smbd、nmbd を停止する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/service smb stop
```

winbindd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/service winbind start
```

winbind を停止する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /sbin/service winbind stop
```

2.8 Linux 版 Samba のコマンド、および各種ディレクトリの配置

- Samba の主要なコマンド類

- /usr/bin/pdbedit
 - ユーザアカウント、マシンアカウントなどの管理
- /usr/bin/net
 - Samba、およびリモート CIFS サーバの管理ツール
- /usr/bin/smbpasswd
 - Samba に登録されたユーザのパスワード変更用ツール
- /usr/bin/nmblookup
 - NetBIOS 名の問い合わせなどのツール
- /usr/bin/smbclient
 - SMB/CIFS サーバーリソースにアクセスするクライアントツール
- /usr/bin/testparm
 - smb.conf ファイルのパラメータチェック用コマンド
- /usr/bin/wbinfo
 - Active Directory 連携機能利用時に、各種情報を取得するコマンド
- Samba の各種デーモン類
 - /usr/sbin/smbd
 - ファイルサーバ、ドメインコントローラ、プリントサーバ機能などを提供するデーモン
 - /usr/sbin/nmbd
 - NetBIOS サービスを提供するデーモン
 - /usr/sbin/winbindd
 - Active Directory 連携機能などのサービスを提供するデーモン
- Samba の VFS モジュール
 - /usr/lib/samba/vfs ディレクトリ
- Samba の設定ファイル
 - /etc/samba/smb.conf
- Samba のキャッシュファイル
 - /var/cache/samba
- Samba のログファイル
 - /var/log/samba
- Active Directory 連携時の Kerberos 設定ファイル
 - /etc/krb5.conf

3. Solaris 版 Samba パッケージのインストール

3.1 対応する Solaris のバージョン

- Solaris10(SPARC)
- Solaris10(x86)

3.2 提供する Samba パッケージ

弊社が提供する Solaris 版 Samba パッケージは、以下のパッケージにより構成されています。

|| 3.2.1 Samba のみご利用の場合

- osstech-samba-3.0.35-1.12.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-db-4.5.20-2.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-krb5-1.5.4-1.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-libiconv-1.10-5.1.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-openldap-2.3.43-5.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-gamin-0.1.9-5.1.sol10-i386.pkg.bz2

上記パッケージに付随するバージョン番号、リリース番号(例: 3.0.35-1.12)は、弊社での Samba パッケージの改善、修正等に伴い、番号が変更されます。

また、sparc 版のパッケージでは、アーキテクチャの種別を表す” i386”の代わりに” sparc”となります。

|| 3.2.2 Samba LDAP 連携をご利用の場合

- osstech-smbldap-tools-0.9.2-1.18.sol10-i386-opt.pkg.bz2
- osstech-perl-Authen-SASL-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Convert-ASN1-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Crypt-SmbHash-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Digest-HMAC-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Digest-SHA1-sol10-intel.gz
- osstech-perl-GSSAPI-sol10-intel.gz
- osstech-perl-IO-Socket-SSL-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Jcode-sol10-intel.gz

- osstech-perl-Net-SSLeay-1.25-3.2.sol10-i386.pkg.bz2
- osstech-perl-URI-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-Map-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-Map8-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-MapUTF8-sol10-intel.gz
- osstech-perl-Unicode-String-sol10-intel.gz
- osstech-perl-XML-SAX-Base-sol10-intel.gz
- osstech-perl-ldap-sol10-intel.gz

sparc 版のパッケージでは、アーキテクチャの種別を表す” intel”の代わりに” sparc”となります。

3.3 Solaris 版 パッケージのインストール

弊社が提供する Solaris 版 samba パッケージ以外のパッケージの多くは、/opt/osstech 配下にモジュールをインストールします。従って、パッケージインストール前に、/opt ディレクトリに 500MB 以上の空き容量があることを確認してください。

各パッケージのインストールは、pkgadd コマンドを用いて行います。各バイナリは bzip2、もしくは gzip により圧縮されていますので、bzip2 コマンド、もしくは gzip コマンドで解凍した後に、pkgadd コマンドでシステムにパッケージをインストールしてください。

- 拡張子が .bz2 のパッケージ

```
# bzip2 -d osstech-samba-3.0.35-1.12.sol10-i386.pkg.bz2
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-samba-3.0.35-1.12.sol10-i386.pkg
```

- 拡張子が .gz のパッケージ

```
# gzip -d osstech-perl-Authen-SASL-sol10-intel.gz
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-perl-Authen-SASL
```

各パッケージをインストールする順番は自由ですが、上記で記載されているパッケージは全てインストールしてください。

3.4 Solaris 版 Samba パッケージのアップデート

まず、Solaris 版 Samba パッケージのアップデートの際の注意事項を確認し、アップデートの際の注意事項に該当する場合、注意事項に従って対処を行ってください。

次に設定ファイル、及びキャッシュファイルのバックアップを実施します。バックアップ対象は次の2つのディレクトリです。

- /etc/samba
- /var/cache/samba

バックアップの実行例です。

```
# mkdir /var/tmp/samba-backup
# cp -pr /etc/samba /var/tmp/samba-backup/etc_samba
# cp -pr /var/cache/samba /var/tmp/samba-backup/cache_samba
```

次に、弊社提供の samba 関連パッケージを利用している場合、pkgrm コマンドで既存のパッケージを削除します。
システムにインストール済みの弊社提供の samba 関連パッケージ、および smbldap-tools 関連パッケージを確認するためには、次のコマンドを実行します。

```
# /usr/sbin/pkginfo -l | grep osstech | grep PKGINST
PKGINST: osstech-db
PKGINST: osstech-krb5
PKGINST: osstech-libiconv
PKGINST: osstech-openldap
PKGINST: osstech-samba
```

システムにインストール済みの弊社提供パッケージのうち、アップデートを実施するパッケージをシステムから削除します。

```
# /usr/sbin/pkgrm osstech-samba
```

その後、アップデートパッケージを pkgadd コマンドでインストールします。

```
# /usr/sbin/pkgadd -d osstech-samba-3.0.35-1.12.sol10-i386.pkg
```

3.5 Solaris 版 Samba パッケージ アップデート時の注意事項

まず、現在利用中の Samba パッケージのバージョンを次の手順で確認します。

```
# /usr/sbin/smbd -V
Version 3.0.24-1.9_OSSTECH
```

弊社提供の Solaris 版 samba パッケージのうち、3.0.24-1.8_OSSTECH 以前のパッケージがインストールされている場合、smbd コマンドが/opt/osstech/sbin/smbd にありますので、次の手順でパッケージのバージョンを確認してください。

```
# /opt/osstech/sbin/smbd -V
Version 3.0.24-1.3_OSSTECH
```

既存のパッケージからアップデートする際の注意事項を記載しますので、該当するバージョンの注意事項に従って、各種ファイルのバックアップや、設定ファイルの変更を実施してください。

その後、samba パッケージのアップデートを実施してください。

3.5.1 samba 3.0.24-1.8_OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート

- samba のコマンド、設定ファイルの配置が、/opt/osstech 配下から、/usr 配下に変更されました。

- パッケージアップデート前に/opt/osstech/etc/samba ディレクトリ、
/opt/osstech/var/cache/samba ディレクトリの内容をバックアップしてください。
- パッケージのアップデート後、/opt/osstech/etc/samba ディレクトリの内容を、/etc/samba
ディレクトリにコピーしてください。
- パッケージのアップデート後、/opt/osstech/var/cache/samba ディレクトリの内容を、
/var/cache/samba ディレクトリにコピーしてください。

|| 3.5.2 samba 3.0.24-1.9_OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート

- samba パッケージの削除時に、smb.conf ファイルが削除されますので、必ず smb.conf ファイルをバックアップしてから、アップデートの作業を実施してください。samba 3.0.24-1.9_OSSTECH より、smb.conf の初期サンプル設定は、smb.conf.default として作成されるように変更されました。
- osstech-openldap パッケージの openldap が利用していたライブラリを弊社提供の osstech-sasl、osstech-openssl から、Solaris10 標準の SASL/OpenSSL ライブラリを利用するように変更しました。その結果、osstech-sasl、および osstech-openssl パッケージが不要となりました。下記の手順で osstech-sasl および osstech-openssl パッケージを削除することができます。

```
# /usr/sbin/pkgrm osstech-sasl  
# /usr/sbin/pkgrm osstech-openssl
```

|| 3.5.3 samba 3.0.24-1.10_OSSTECH 以前のバージョンからのアップデート

- smb.conf の " msdfs root" パラメータのデフォルト値を " yes" から " no" に変更しました。
- 既存の設定ファイル中に " msdfs root" パラメータが設定されていない場合、samba 3.0.24-1.10_OSSTECH 以前の samba では " msdfs root = yes" として動作しています。この場合、 " msdfs root= yes" パラメータを smb.conf に追加せずに、samba-3.0.24-1.10_OSSTECH 以降のパッケージにアップデートすると、既存の Windows クライアントが接続できなくなる可能性があります。したがって、 " msdfs root = yes" を smb.conf の [global] セクションに追加してから、samba パッケージのアップデートを実施してください。

3.6 Solaris 版 Samba の初期設定

- Samba の設定ファイルである smb.conf は /etc/samba ディレクトリに作成してください。
- 既存の samba 環境を引き継ぐ場合には、samba のキャッシュファイル(***.tdb) を /var/cache/samba ディレクトリにコピーしてください。
- samba のログファイルは、/var/log/samba ディレクトリに作成されます。
- winbind による Active Directory 連携時には、/opt/osstech/etc/krb5.conf に Kerberos 認証のための設定を行ってください。

3.7 Solaris 版 Samba の起動スクリプト

samba(smbd、nmbd)、および winbind の起動スクリプトとして、/etc/init.d/smb、および/etc/init.d/winbind を用意してあります。

smbd、nmbd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/smb start
```

smbd、nmbd を停止する場合は次のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/smb stop
```

winbindd を起動する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/winbind start
```

winbind を停止する場合は、次のコマンドを実行してください。

```
# /etc/init.d/winbind stop
```

|| 3.7.1 起動スクリプトに関する注意事項

- /etc/init.d/samba は、Solaris10 標準の samba パッケージが提供している起動スクリプトです。この起動スクリプトでは、弊社提供の Samba を起動することはできませんので注意してください。

3.8 Solaris 版 Samba のコマンド、および各種ディレクトリの配置

- Samba の主要なコマンド類
 - /usr/bin/pdbedit
 - ユーザアカウント、マシンアカウントなどの管理
 - /usr/bin/net
 - Samba、およびリモート CIFS サーバの管理ツール
 - /usr/bin/smbpasswd
 - Samba に登録されたユーザのパスワード変更用ツール
 - /usr/bin/nmblookup
 - NetBIOS 名の問い合わせなどのツール
 - /usr/bin/smbclient
 - SMB/CIFS サーバーリソースにアクセスするクライアントツール

- /usr/bin/testparm
 - smb.conf ファイルのパラメータチェック用コマンド
- /usr/bin/wbinfo
 - Active Directory 連携機能利用時に、各種情報を取得するコマンド
- Samba の各種デーモン類
 - /usr/sbin/smbd
 - ファイルサーバ、ドメインコントローラ、プリントサーバ機能などを提供するデーモン
 - /usr/sbin/nmbd
 - NetBIOS サービスを提供するデーモン
 - /usr/sbin/winbindd
 - Active Directory 連携機能などのサービスを提供するデーモン
- Samba の VFS モジュール
 - /usr/lib/samba/vfs ディレクトリ
- Samba の設定ファイル
 - /etc/samba/smb.conf
- Samba のキャッシュファイル
 - /var/cache/samba
- Samba のログファイル
 - /var/log/samba
- Active Directory 連携時の Kerberos 設定ファイル
 - /opt/osstech/etc/krb5.conf

4. Samba のバージョンアップ

本章では、Samba のバージョンアップに伴う仕様変更の内容、および、設定方法の変更について記載します。

Samba のバージョンアップを実施する場合には、本章の記載内容にしたがって、設定を変更してください。

4.1 Samba 3.0.24 から Samba 3.0.35 へのバージョンアップ

|| 4.1.1 smb.conf のパラメーターの仕様変更

Samba 3.0.35 では以下のパラメーターが変更されています。

- administrative share (新規パラメーター)
 - デフォルト値 No
- debug prefix timestamp(新規パラメーター)
 - デフォルト値 No
- directory name cache size(新規パラメーター)
 - デフォルト値 100
- idmap alloc backend(新規パラメーター)
 - デフォルト値 無し
- idmap cache time(新規パラメーター)
 - デフォルト値 900
- idmap domains(新規パラメーター)
 - デフォルト値 無し
- idmap negative cache time(新規パラメーター)
 - デフォルト値 120
- ldap debug level(新規パラメーター)
 - デフォルト値 0
- ldap debug threshold(新規パラメーター)
 - デフォルト値 10
- lock spin count
- lock spin time
 - デフォルト値 200
- max stat cache size(デフォルト値変更)
 - デフォルト値 1024
- printjob username(新規パラメーター)

- デフォルト値 %U
- winbind normalize names(新規パラメーター)
- デフォルト値 No

|| 4.1.2 fam change notify の設定

Samba で利用している共有フォルダ内のディレクトリやファイルが他のプロセスによって更新されたことを検知する実装として、Samba 3.0.24 まで利用可能であった「change notify timeout」パラメーターによる定期的な監視機能が Samba 3.0.25 で削除され、Linux カーネルの inotify、もしくは fam による検知機能のみが利用可能となっています。

この結果、RedHat Enterprise Linux 4/Cent OS 4、および Solaris で、Samba 3.0.35 を利用する際に、gamin パッケージを導入し、以下の fam 関連の設定を[global]セクションに追加する必要があります。

```
change notify = yes
vfs objects = notify_fam
```

なお、この問題は、RedHat Enterprise Linux 5/Cent OS 5 には影響しません。

|| 4.1.3 Active Directory 連携時の winbind 設定

Samba 3.0.35 では、Active Directory 連携時の winbind の設定が変更されています。

Samba 3.0.24 で idmap backend パラメーターで設定していた項目の設定方法が変更されていますので、バージョンアップの際に、Samba 3.0.35 の書式にしたがって変更してください。

[設定例]

Samba 3.0.24

```
idmap uid = 10000-40000
idmap gid = 10000-40000
idmap backend = rid:"BUILTIN=10000-19999, DOMAIN1=20000-29999,
DOMAIN2=30000-39999"
```

以上の設定が行われていた場合、Samba 3.0.35 では、次の設定に変更します。

```
idmap uid = 10000-40000
idmap gid = 10000-40000
idmap domains = BUILTIN DOMAIN1 DOMAIN2
idmap config BUILTIN:backend = rid
idmap config BUILTIN:base_rid = 0
```

```
idmap config BUILTIN:range = 10000 - 19999
idmap config DOMAIN1:backend = rid
idmap config DOMAIN1:base_rid = 0
idmap config DOMAIN1:range = 20000 - 29999
idmap config DOMAIN2:backend = rid
idmap config DOMAIN2:base_rid = 0
idmap config DOMAIN2:range = 30000 - 39999
```

Samba 3.0.24 では、idmap backend の種類は 1 種類しか指定することができませんでしたが、Samba 3.0.35 では、ドメインごとに idmap backend の種類を指定することが可能になりました。

idmap backend として指定できる種類は、「ad」、「ldap」、「nss」、「rid」、「tdb」の 5 つです。

それぞれのバックエンドの詳細については、次の man データーを参照してください。

- idmap_ad(8)
- idmap_ldap(8)
- idmap_nss(8)
- idmap_rid(8)
- idmap_tdb(8)

5. インストールガイド更新履歴

- 2007/02/23 初版 : Samba インストールガイド v1.0
 - 初版
- 2007/03/24 第2版 : Samba インストールガイド v1.1
 - Solaris 版 Samba 関連パッケージの命名規則が「osstech-[ソフトウェア]名-[バージョン番号].sol10-[アーキテクチャ].pkg.bz2」に変更されました。
 - Solaris 版 osstech-openssl パッケージの代わりに Solaris10 付属の OpenSSL を利用するように変更しました。そのため osstech-openssl パッケージは不要となりました。
 - Solaris 版 osstech-sasl の代わりに Solaris10 付属の SASL を利用するように変更しました。そのため osstech-sasl パッケージは不要となりました。
 - Solaris 版 Samba 関連の各パッケージの圧縮方式が bzip2 に変更となりました
- 2007/06/04 第3版 : Samba インストールガイド v1.2
 - Linux 版 Samba パッケージに関するインストールガイドを追加しました。
 - Samba パッケージアップデート時の注意事項を追加しました。
 - 修正内容の詳細については、別紙「OSSTech Samba 3.0.24 に追加した修正内容について」を参照するように変更しました。
- 2008/01/21 第4版 : Samba インストールガイド v1.3
 - パッケージのバージョンを最新バージョンにアップデートしました。
- 2008/06/10 第5版 : Samba インストールガイド v1.4
 - パッケージのバージョンを最新バージョンにアップデートしました。
 - Solaris 版パッケージアップデート時のファイルバックアップの手順を追加しました。
- 2008/07/07 第6版 : Samba インストールガイド v1.5
 - Samba 3.0.30 へのアップデート時の注意事項を追加しました。
- 2008/08/12 第7版 : Samba インストールガイド v1.6
 - パッケージのバージョンを Samba 3.0.31 にアップデートしました。
- 2008/12/01 第8版 : Samba3.0 インストールガイド v1.7
 - ドキュメントのタイトルを「Samba 3.0 インストールガイド」に変更しました。
 - x86-64 環境での RPM パッケージのインストールに、32 ビット版パッケージのインストールについても追記しました。
- 2009/04/01 第9版: Samba3.0 インストールガイド v1.8
 - パッケージのリリース番号を最新版に更新しました。
- 2009/07/27 第10版 : Samba 3.0 インストールガイド v1.9
 - Samba パッケージを 3.0.35 にアップデートしました。
- 2010/07/01 第11版 : Samba 3.0 インストールガイド v2.0

- パッケージのリリース番号を最新版に更新しました。
- 2011/05/11 第 12 版 Samba 3.0 インストールガイド v 2.1
 - パッケージ構成を最新版に更新しました。
- 2012/04/16 第 13 版 Samba 3.0 インストールガイド v 2.2
 - パッケージ構成を最新版に更新しました。